

音楽は聴いて楽しむだけじゃない。「演奏こそが人生！」。そんなアマチュア・オーケストラと合唱団のエネルギッシュな活動を紹介していきます。

今回は東日本大震災を乗り越えさらなる歩みを進める仙台ニューフィルハーモニー管弦楽団。

# 「街の歌」改め アマチュア・オーダストラ & 今唱田 探訪

連載○第6回

# 仙台ニューフィルハーモニー 管弦楽団



仙台市広瀬文化センターでのリハーサル（9月）。未廣誠の指揮で、深々として広がりのある音が紡ぎ出される。「団員は“楽器マニア”、“音楽マニア”含め充実のメンバーが揃うものの弦楽器は少々人数不足ざみ」とのこと。豪華なことにエキストラとして仙台フィル団員が参加することもあるという



ブルックナーのシンフォニーでひときわ大きな存在感を放つホルン／テナーユーパー群。「うちのホルントップ、ちょっとすごいでしょ」との団長・熊谷仁氏(hrn)の言葉に大きなかわら笑。マクラフニンに繋がる仲間の存在は大き碁モドキ／ヴィーセンションの源だ。

来は2011年5月の定期公演で取り上げるはずだったものが、東日本大震災直後のさまざまなかたちで演奏会は中止となり、日常を取り戻すうちにニューフィル内から生まれた「同じプログラムを実現したい」との声に指揮者末廣誠が応えた。という。取材を行ううかがつたのは、9月、指揮者練習は2回目とい

来は2011年5月の定期公演で取り上げるはずだったものが、東日本大震災直後のさまざまなかたちで演奏会は中止となり、日常を取り戻すうちにニューフィル内から生まれた「同じプログラムを実現したい」との声に指揮者末廣誠が応えた。という。取材を行ううかがつたのは、9月、指揮者練習は2回目とい

仙台フィルハーモニー管弦楽団の前身を担つた歴史あるオーケストラ

宮城県仙台市。東北の玄関として、仙台市は、フィルハーモニー管弦楽団の拠点として、あるいは仙台国際音楽コンクールの開催地として「楽都」の名高い都市である。

記の東北大学不斉美術団との往い、これがの  
楽団が生まれあるいは消えた後の81年、仙

現在団員数約76人。年2回の定期演奏会と毎年末恒例の『第九』公演を軸に、ほぼ毎週火曜の夕方か（指揮者の都合によつては）土日にも練習を行う。特定の指導者をおかず、選曲も団員からの発案で決定し、仙台初演など珍しい曲にも意欲的。近年ではブリテン『ピーター・グラムズ』より『4つの海の間奏曲』などが注目された。

- ・団体名：仙台ニューフィルハモニー管弦楽団
  - ・創立：1981年
  - ・練習：毎週火曜日 19～21 時30分（演奏会の前には、土日に指揮者練習が入ることがある）、仙台市旭ヶ丘市民センター4階ホール他にて
  - ・会費：3,000円／月
  - ・団員数：76名
  - ・活動：前身は1973年にアマチュアとプロの混成で創立された「宮城フィル」。1981年にアマチュアのメンバーが中心になって現在の「仙台ニューフィル」となった
  - ・次回演奏会：〈日時〉2013年4月20日 18時30分（予定）  
〈会場〉川内萩ホール（宮城県仙台市）〈出演〉山下一史（指揮）  
〈曲目〉シューマン：オペラ『ゲノフェーフア』序曲、ベートーヴェン：交響曲第1番、ショスタコーヴィチ：交響曲第5番
  - ・募集：ヴァイオリin、チェロ、コントラバス
  - ・問合せ：下記ホームページよりお問合せください
  - ・URL：<http://sendainewphil.client.jp/>

「ユーフィルハーモニー管弦楽団」(以下、ニューフィル)は生まれた。前身は73年創設のプロアマ混成団体「宮城フィルハーモニー管弦楽団」。この楽団は当初からプロ化を目指しており、79年にプロ・オケとして現在の仙台フィルへと進化の道を踏み出します。そこに加わらなかつた宮城フィル団員によってアマチュアとして再出発したのが

ニユーライフル内広報として団員有志が「かほうげん」なる8ページにわたる冊子を作成しており、その内容の濃さは瞠目のだ。そんな团员の造詣の深さ、層の厚さは演奏の端々にも現れる。

うかすでは相当の仕上がりを見せており、意志のこもった音運びからは演奏にかけるそれぞれの思いが伝わってくるようだ。すでに来年4月の公演に向け動き出しているニューフィルの幸多き發展に心を寄せつつ、さらなる躍進、そして当地の復興を祈りたい。